

# 校長室からこんにちは!

No. 20

10月 4日

発行者 中田 禎二

## やり残した宿題

私には二人の娘がいます。〇〇年前を振り返るたびに、上の子には、新米の親ならではの育児書や、人の受け売りなどで聞きかじりの育児をしていたことが苦い記憶として蘇ります。早く自立させようとした私は、1歳にならない我が子に就寝時間を決め、その時間になったらどんなに機嫌よく遊んでも一人ベッドに寝かせていました。遊び足りない時など泣きながら寝ていました。また、2歳位になると自分の出したおもちゃはどんなに時間がかかろうと、きちんと元あった場所に片づけてから就寝させるという毎日でした。もちろん、手伝えることは一切しません。私はそれを親の愛情や躾と思い信じ、ずっと続けていました。その後二人目の子が生まれ、同様の育児をしようと先輩に話したところ、「何を言っているの!」とのっけから注意されました。そして、「子どもが親を求めている間は、しっかり抱きしめて、一緒に遊んで寝て、愛情を注ぎなさい。」「あなたのは愛情ではない。」「躾を間違っている。」と昏々と諭されました。その先輩は仕事と家庭を見事に両立し、子どもにたっぷりの愛情を注ぎながら自立心旺盛で逞しい男の子二人を育て上げています。ショックを受けた私はもう借り物の育児はすまいと決め、下の子には上の子とは言わば真逆な育児をしました。就寝時間は決めてはいましたが、時にしっかり遊ばせその場でそのまま寝ることもしばしばでした。もちろん寝る時は一緒にベッドに入って、本を読んだりいろんな話をしながら眠りにつかせました。

その後の娘ですが、上の子は下の子のように私にズケズケものを言ったりせず、ほとんど反抗期特有な言動も見せず大きくなりました。そんな姿に私は大切な忘れ物をしてしまったとの思いがずっと胸にあるのです。

子どもを育てることは理屈ではなく、我が子のことを一生懸命に思うこと。一生懸命に食事を作ること。真剣に話を聞くこと。抱きしめること。ときに喧嘩すること。叱ること。という至極自然で当たり前のことが大切だと思います。どうか、これからもしっかりと子どもさんに関わってあげてください。その先にはきっと大人の親子同士のよりよい関係が見えてきます。もちろん、そんな家庭の土台があって始めて学校教育もそのねらいを達成できます。

せめて、将来、孫ができたなら、しっかり愛情を注いで娘にやり残した宿題を果たしていけたらと思っています…。

## 校長写真館



カタールフィルの演奏会。カタールを代表するアーティストによるピアノと弦楽器のコラボ。素晴らしい会場で心の栄養をもらった1時間でした。やっぱり本物はいいですね。

## ちょっとお耳を…

10月に入った。我が故郷では稲刈りが始まる。そして、恒例の秋祭り。子ども神輿が町内を練り歩く。

祭りを仕切るのは地域の年長者たち。だから私などはまだまだその他大勢。

しかし、これがいいのだ。その評価は別にして、都市化された故郷にあって、地域社会がそこに存在することが。

今年も第二日曜日、80代が先導し、70代が気遣いを歌い、親子が担ぐ神輿が我が家にもやって来る。